

佐々木ゆりか

◆Fビレッジ周辺の迷惑駐車・路上駐車について

- Q 新駅の東西連絡橋ができれば、現在路上駐車が問題になっているエリアから簡単にFビレッジへ行けるようになる。連絡橋完成までに駐車禁止など抜本的対策を取る必要があると考えるが、見解は。
- A 引き続き可能な限りの対策を講じるとともに、JR新駅開業に伴い交通量が増えることも想定されることから、改めて駐車禁止の必要性について警察との協議も含め進めていきたい。



◆公共交通について

- Q バス路線が廃止された地域を含めた、全市的な移動ニーズ調査はいつを予定しているか。
- A 2027年度に予定している次期地域公共交通計画の策定に合わせ、実施を検討したい。

2025年第1回定例会 一般質問

2月28日

佐々木ゆりか

◆上下水道事業について

- Q ウォーターPPPの導入可能性を探る調査予算が計上されている。どのような調査を行うのか。
- A 国の推進により、上下水道一体での新たな官民連携方式の導入の可能性を検討するもの。調査内容としては、上下水道事業に関する基礎調査を行った上で、現状分析や各課題を整理する。上下水道施設の管理と更新を一体としたマネジメント方式の導入について、必要か不要か検討を行う。

2024年第4回定例会 一般質問

12月16日

佐々木ゆりか

◆介護保険について

- Q 安定的なサービス提供に向けた事業者への聞き取りや対処について伺う。
- A おおむね利用者のニーズに応じたサービス提供ができていますが、人材の確保は難しい状況。事業計画策定の際に事業者アンケート調査を実施し、希望する事業者には対面形式での聞き取り調査などを行っている。今後も、より一層、市、地域住民、介護事業者が相互に協力し、人材の確保を図る必要がある。

市議会
インターネット
映像配信は
コチラ

鶴谷さとみ

◆安全な水の供給について

- Q 北海道による安平川の水質調査で、国が定める暫定指針値を超えるPFOS等が検出された。千歳市の半導体工場の工業用水は、安平川から取水し千歳川へ排水される。試作ライン稼働後の水質への影響は。
- A 水道用水供給元である石狩東部広域水道企業団が取水している2水系のうち、千歳川系は、工場の排水地点の上流部分で取水し、漁川系は取水河川が異なり、供給を受けている水道の水質に影響はない。

◆労働者協働組合法について

- Q 持続可能な地域づくりをすすめるため、庁内での周知と連携を図り、機会を捉えて市民に情報提供を。
- A 関係部署と情報共有を図り、国や道などと連携しながら必要な対策を講じ、検討する。

鶴谷さとみ

◆子どもの権利条例について

- Q 子ども会議では、テーマごとに担当課が企画進行をしている。市職員における子どもの権利への理解はどの程度進んでいるのか。
- A 「こどもの意見表明・反映の推進のための研修資料」や「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」を踏まえ、周知啓発に努めている。子どもに関わる事業は、アンケート等で子どもたちに意見を聴きながらすすめている。

鶴谷さとみ

◆教育施策について

- Q 学校に行けない、行かない子どもの学びについて、学校外の学習機関や自宅学習等の成績評価の際、どのような学びが該当するのか。
- A 児童活動センターさとおびーや、民間のフリースクール、自宅でのオンライン学習等が対象。保護者や関係機関と十分な連携・協力関係の下で行うことが重要。



佐々木ゆりか

◆駅西口周辺エリア活性化事業
9億 9,174万5千円

- Q 補助金9億9,100万円の支払い先は。また、施設が完成した後も続く性質の予算か。
- A 国の「スマートウェルネス住宅推進事業補助金」を活用し、市も国と同額の財政支援を行う。国の負担分もあわせ、市が一括して事業者の日本エスコに支払う。2024年から2026年にかけて整備するマンションと複合の生活利便施設の工事進捗率により支払われる。

◆予防接種推進事業 1億9,873万8千円

- Q 新型コロナワクチンについて、健康被害救済制度の申請状況は。
- A これまでに4件申請があった。



鶴谷さとみ

◆西部地区義務教育学校整備事業
1,479万円

- Q 2025度の地域への説明や意見聴取はどのように行うのか。
- A 保護者や地域の方などで構成される基本構想策定検討委員会を設置し、基本構想の策定段階から意見を聴取するほか、基本構想案の説明会の開催、パブリックコメントを実施する予定。
- ◆子ども家庭センター運営事業 704万円
- Q 岩見沢市では、ヤングケアラーコーディネーターが配置され、対象となる子ども・若者への切れ目ない支援につなげている。本市における支援体制は。
- A ヤングケアラーと思われるケースを把握した場合は、予防的な視点も踏まえ、障害福祉サービスやひとり親家庭などのサービスの活用などの検討を提案し、必要に応じて事業所との連携も行うなど個別に支援を行っている。

佐々木ゆりかの沖縄スタディツアー報告 2024年12月19日～22日

激しい地上戦で、県民の4人に1人が亡くなった沖縄。戦争の爪痕とアメリカによる占領時代、返還後もなお続く基地負担などについて現地の方からお話を伺い、今も「戦後」とは言いがたい状況を目の当たりにしてきました。次の世代に残したいのは戦争と破壊ではなく、平和な未来です。現地で学んだことを今後も発信していきます。

沖縄戦遺骨収集について

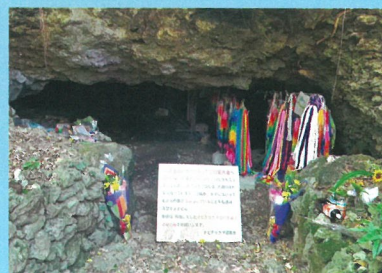
長年、遺骨収集を続ける具志堅隆松さんに現在の状況を伺いました。辺野古の新基地建設に、今も多くの遺骨が眠る南部地域の土砂を使う計画が持ちあがり、全国的に反対の声が上がりました。今のところこの地域の土砂は工事に使われていませんが、計画は撤回されていません。具志堅さんは「北海道の戦没者遺族と、もっと連携していきたい」と語りました。人間の尊厳を守るため、国は県民に寄り添い、法もとの遺骨収集に早急に取り組むべきです。



▲ガマフヤー（ガマを掘る人）として40年以上活動している具志堅隆松さんと佐々木ゆりか



◀沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書
(2021年12月北広島市議会総意採択)



◀「集団強制死（集団自決）」が起きたチビチリガマ／読谷村（よみたんそん）

「チビチリガマ」と「シムクガマ」

読谷村波平区にあるチビチリガマとシムクガマを訪れました。

チビチリガマでは、米兵が入り口に来た際にパニックが起き、自ら命を絶ち、親族同士で手をかける集団自決など、避難者約140名中83名が死亡（うち子ども50名）。シムクガマでは、米兵が迫ってきた際、ハワイからの帰国者が交渉済み、無抵抗の住民を殺す意思がないと確認。1000名を超える避難者は、全員助かりました。

軍国主義教育で「鬼畜米英」と教え込まれていたことがチビチリガマでの悲劇を招いたとも言えます。言語や文化の違いを乗り越えることの大切さを学びました。